

青函地域経済活性化フォーラム(第2回)資料

北海道新幹線開業による地域経済への効果と課題
および東北・北海道地区交流促進地銀連携事業

平成28年5月27日

株式会社北海道銀行



北海道新幹線開業による地域経済への波及効果と課題①

▶ JR北海道が発表した資料によれば、北海道新幹線開業後1ヵ月間（3月26日～4月25日）までの一日平均利用者数は、約5,600人。前年同曜日期間の在来線特急・急行列車実績と比べて約2倍の利用実績となった。

▶ 週刊ホテルレストランの調査によると、本年3月の函館市内ホテル（対象3ホテル）における客室稼働率は、84.8%と前年同月から6.3ポイント上昇した（8割を超えると平日・土日においてほぼ満室に近い状態と言われる）。

⇒平日利用者の引き上げが必要（ビジネス目的客・修学旅行生の獲得等）

⇒ホテル・旅館不足が顕在化（観光客の満足度低下や訪問を諦める動きに繋がる可能性）

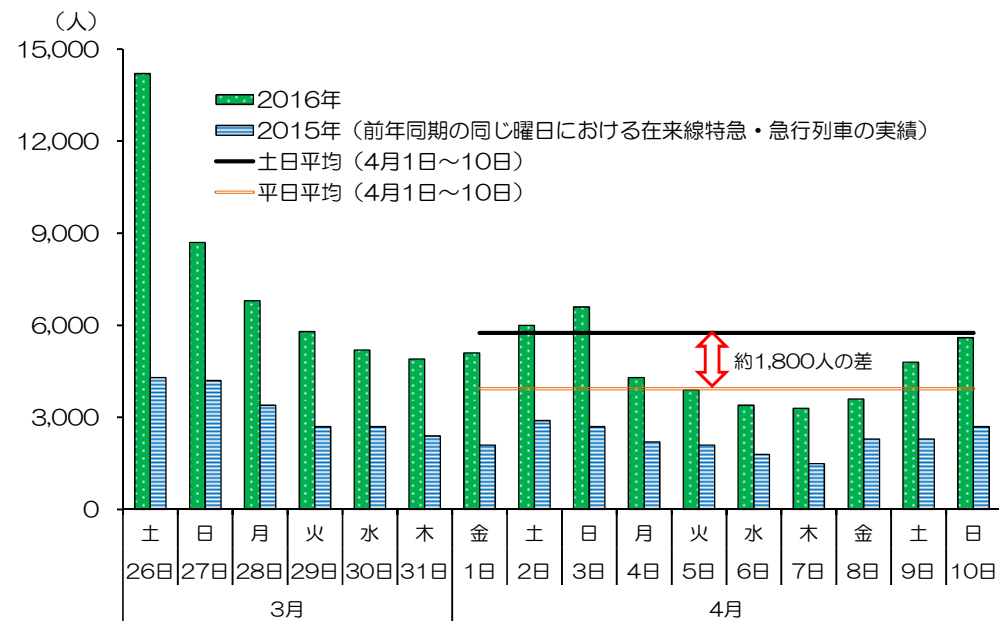
⇒総合的な受入体制構築に向け、官民・地域間連携による対応が必要

北海道新幹線（新青森-新函館北斗）の利用状況

3月26日～4月10日 （開業後16日間）		1日平均 利用者数	1日平均 乗車率
下り （新函館北斗方面）	実績	約2,800人	26%
	前年比	214%	-
上り （新青森方面）	実績	約2,900人	27%
	前年比	220%	-
合計	実績	約5,700人	27%
	前年比	217%	-
3月26日～4月25日 （開業後1ヵ月間）		1日平均 利用者数	1日平均 乗車率
下り （新函館北斗方面）	実績	約2,800人	26%
	前年比	196%	-
上り （新青森方面）	実績	約2,800人	27%
	前年比	202%	-
合計	実績	約5,600人	27%
	前年比	199%	-

（注）前年の在来線は、中小国-木古内間の特急・急行列車実績。
（出所）北海道旅客鉄道㈱「北海道新幹線開業後1ヵ月間のご利用状況について（平成28年4月26日）」「北海道新幹線のご利用状況（平成28年4月13日）」

開業後16日間における北海道新幹線の利用状況



（注）前年の在来線は、中小国-木古内間の特急・急行列車実績。
（出所）北海道旅客鉄道㈱「北海道新幹線のご利用状況（平成28年4月13日）」



北海道新幹線開業による地域経済への波及効果と課題②

北海道内の観光関連事業者の「観光需要獲得に向けた優先検討課題」

種別	回答選択肢	全体
販売促進	集客を図るための広告宣伝の活発化	13.5%
研究開発	観光客をターゲットとした新商品の開発	12.7%
受入体制（人材）	従業員の確保、新規（含む新卒・中途）採用	12.6%
受入体制（設備）	店舗・施設内での案内表示等の「多言語化」への対応	12.3%
受入体制（人材）	海外客への対応力強化を目的とした従業員教育	8.1%
販売促進	旅行代理店、口コミサイト等との接点強化	7.7%
営業・受入体制（設備）	店舗・施設のリニューアル、既存営業エリア内での出店	6.1%
販売促進	宿泊・外食予約サイトの運営事業者との連携	4.9%
営業・受入体制（設備）	国内・道内の他地域への進出・展開	3.6%
受入体制（設備）	免税店に関する設備（含む更なる充実化）	3.2%
受入体制（設備）	クレジットカードなどの決済関連機能の充実化	2.7%
受入体制（設備）	店舗・施設内等におけるWi-Fi等の無線LAN整備	2.4%
営業・受入体制（設備）	他の観光関連事業への参入	1.4%
受入体制（設備他）	ムスリム（ハラール等）への対応	0.9%
-	検討していない	6.8%
-	その他	1.1%
-	小計	100.0%

（注1）調査対象は、道内に本店所在地を置く観光需要に接する機会の多い業種に属する、もしくは、既に観光事業に取り組んでいる事業者（企業）計465社を有意抽出した。

（注2）調査時期は平成28年1月。本設問に対する回答者数は351社で、総回答数が740（優先度の高いものから最大3つまで回答可能としている）。

（出所）北海道銀行

東北・北海道地区交流促進地銀連携事業～最近の取組み①

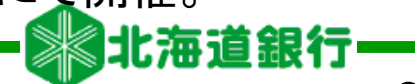
1. 北海道新幹線開業記念「道南・東北の魅力再発見」～平成28年2・3月

東北・北海道地区交流促進地銀連携行
10行、JR北海道との連携企画。
北海道じゃらん28年3月号(2月20日
発売)、関東・東北じゃらん28年4月号
(3月1日発売)に新幹線を利用した
東北・北海道の観光ルート、観光名所、
グルメスポットを12ページの特集として
掲載し誘客を促進。
通常誌面との差別化を図るため、お勧め
スポットを地元銀行員が紹介した。



2. 「青函パ酒ポート」発売 ～平成28年4月

みちのく銀行、JTBグループと連携。スタンプラリー形式で酒造所を巡ることによる
南北海道と青森県の周遊観光促進企画。
青森県の酒造所17(日本酒10、焼酎2、ビール1、ワイン1、シードル3)、道内の酒
造所10(日本酒3、地ビール3、ワイン4)が参加。吉田類氏を招いての発売記念イベ
ントを青森市「A-FACTORY」で、函館市でもテーオーデパートにて開催。



東北・北海道地区交流促進地銀連携事業～最近の取組み②

3. VJ事業を活用したインバウンド促進

28年5月14日～20日実施。

国土交通省所管の訪日プロモーションのための地方連携事業。岩手銀行、旅行代理店、旅客運送事業者等と連携したインバウンド増加を目指す試み。台湾のメディアとパワーブロガーを招聘し、岩手県の中尊寺などの歴史、文化と北海道の自然、食との融合による「面」での観光をPRする。東北・北海道間は新幹線で移動。

VJ地方連携事業
「Driving in HOKKAIDO」(1)
メディア招請事業(台湾)
企画提案書

4. 「北海道・東北・北陸ビジネスマッチング in東京～6次産業化商談会」

平成28年2月2日有楽町で開催。北海道9社、東北22社、北陸5社、計36社出展。商談・相談件数102件。当日は新幹線開業PRブースを併設しDVDを放映。



東北・北海道地区交流促進地銀連携事業～検討中の取組み

1. 北海道新幹線開業記念「道南・東北の魅力再発見」～第2弾

東北・北海道地区交流促進地銀連携行10行、JR北海道との連携企画。北海道じゃらん28年3月号、関東・東北じゃらん28年4月号で実施した特集(P3参照)の第2弾。前回の春・夏情報に対し温泉を中心とした秋・冬情報を発信することで年間を通じた東北・北海道の交流人口増加、首都圏からの誘客促進を図る。前回同様、お勧めスポットを地元銀行員が紹介するほか、本企画単独のフリーペーパー制作も検討中。

2. 室蘭市・宮古市経済交流事業

平成30年6月の川崎近海汽船フェリー一就航を見据え、室蘭・宮古間の経済交流事業。28年度は当行および岩手銀行の取引先が相互に訪問し、観光施設や工場見学、被災地視察、経営者および行政との意見交換会等を実施する方向で岩手銀行と協議中。

<参考1> 東北・北海道地区交流促進地銀連携について

1. 連携の目的

平成28年春の北海道新幹線開業を見据え、東北と北海道との相互交流を多方面から積極的にサポートし、地域経済の発展に寄与する。平成25年3月協定締結。

2. 提携の範囲

- (1) 各々の地域の経済団体等、各種団体の交流、連携支援
- (2) 各々の取引先企業の相互地域への進出支援
- (3) ビジネスマッチング業務を含めた営業情報の紹介
- (4) 震災被災住民への商品、サービス等のサポート
- (5) その他、各々の地域ネットワークを活用した情報、サービスの提供



<提携先>

青森銀行、みちのく銀行、
岩手銀行、東北銀行、
七十七銀行、秋田銀行、
北都銀行、荘内銀行、
山形銀行、東邦銀行、
フィデアホールディングス

＜参考2＞ 従来の取組み～観光関連

1. 「函館 & 道南魅力発掘隊」

函館・道南の情報を東北・北関東へ発信。リクルート北海道じやらんと連携し当行取引先等による道南の魅力紹介記事を平成27年1月から28年3月まで15回連載。同社ウェブサイトでの告知、関東・東北じやらん誌上でウェブサイトへの誘導を行う。掲載誌は北海道銀行全店に備え置き、東北・北海道地区交流促進地銀連携行へ配付。

2. 「函館・道南で春と桜を楽しむ本」～平成27年4月

函館・道南の情報を東北・関東へ発信。リクルート北海道じやらんと連携し、道南の春の魅力を発信するフリーペーパーを10,000冊発行。うち東北・北海道地区交流促進地銀連携行の主要店舗、ほくほくFGの都内店舗で3,000部を配付。

3. 調査ニュース「行こうよ。東北」～平成27年2月

東北の情報を北海道内へ発信。月間誌調査ニュースの別冊号として9,150部発行。東北の魅力を東北・北海道地区交流促進地銀連携行10行が執筆。



＜参考2＞ 従来の取組み～ビジネス関連

1. 「東北・北海道6次産業化ビジネスフォーラム」

平成25年11月18～19日札幌で開催。北海道52社、東北28社、計80社が出展。
商談302件、成約件数7件



2. 「北海道・東北ビジネスマッチング～6次産業化商談会」

平成26年6月10日札幌で開催。北海道18社、東北7社、計25社出展。
商談・相談件数51件、成約3件

3. 「北海道・東北・北陸ビジネスマッチングin東京～6次産業化商談会」

平成27年2月3日有楽町で開催。北海道12社、東北17社、北陸7社、計36社出展。
商談・相談件数100件。